伝説の忍と白銀の子

綺羅斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
伝説の忍と白銀の子

【Ｎコード】
Ｎ３０１５Ｌ

【作者名】
綺羅斗

【あらすじ】
雇い主がある幼子を拾ってきた……。その幼子は普通の幼子ではなかった

雇い主が拾いモノをしてきた。
それは、物ではなく人だった。
その拾いモノは、幼子の筈なのに血の臭いを漂わせ、驚くべきほど気配を消すことに長けていた。
雇い主の話によれば、戦の跡地で発見したらしい。屍から生きる上で必要不可欠な物を剥ぎ取り生きていた、と言うのだ。まだ、十にも満ちていないのに、よく生き延びられた、と思った。しかも、銀髪に朱い目の容姿で。見慣れぬ者達には異端でしか確認されなかった筈だろう。

話は変わるが、この自分に、雇い主が新たに命じたのは、その幼子の世話。
最近、雑用ばかりしかやっていないような気もするが、深く考えずその幼子がいるという、少し離れた所にある一室へと向かった。

「……だれ」
「……！」

その部屋の屋根裏にたどり着いた途端に、その幼子が声を発した。
まさか、この自分の気配を感じ取ったのか。
このまま、屋根裏に居ても仕方が無いので、大人しく下へと降りる。だが、何故か幼子の姿は無かった。気配も、無いに近く、よく探らないといけないほどだった。
気配を探り、捜せばそこは押し入れの中。あの短時間で音もたてずに隠れたのか。それ程まで、今までの生活は過酷だっただったのだろうか？
そんな事を思いながら、襖を開ければ、ビクリ、と身体を震わせ

る縮こまっていた白い物体。之がこれから世話をする幼子だろう。
強い警戒に思わずため息を吐きそうになるのを、堪えた。

「……たいじ、する」
「……？」
「……おまえも、たいじ、する？」

意味が分からない。
しかし、見上げたその瞳は怯えと悲しみ、絶望が入り交じっていた。

「……みんな、おにご、いう」

その言葉に、意味が分かった。
確かに、幼子の容姿は小さな白鬼に、似ている。

「……ころす、の」
「……」

この、幼子は今迄大人達に殺されかけたのだろう。だとしたら、気配を消すことに長けすぎているのも合点が行く。
あの瞳に絶望があったのは、得物が今手元にないから、殺されると思ったのだろう。

「！」

安心させるために頭を撫でようと手を伸ばせば、警戒がさらに強くなった。

（……やはり、手こずるな…）

人に命を狙われ続けられていた者がそう簡単に警戒を解く訳無いのだ。
それに、子守などしたことが無いから、尚更だ。
（……どうしたものか）
これからの日常を想像し、溜息をついた

（後書き）

もしかしたら、連載するかも知れません…。
感想により決めようと思います！↑
ちなみに、幼子とは、銀時のことですが……分かりましたでしょうか…？？

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3015l/

伝説の忍と白銀の子

2010年10月14日18時32分発行